

# グローバルサイエンスキャンパス 令和元年度全国受講生研究発表会

## GSCで学んだOB・OGが未来の科学者たちにメッセージ ～サイエンスアゴラ2019 ステージ企画～

11月15日～17日に東京お台場地区で開催された「サイエンスアゴラ2019」のステージ企画として、GSC修了生が当時の経験とその後の進路とのつながりや、次世代の科学技術人材へのメッセージを語るトークセッションが行われた。

羽田野仁喜さん（中外製薬株式会社）は2009年にGSCの前身プログラム「未来の科学者養成講座」を受講後、九州大学理学部に進学。現在は創薬研究に取り組んでいる。「担当の先生から、研究への取り組み方、周りの人との協働の仕方などを教えていただいたことが今、仕事に生きています」と振り返った。

山中美慧さん（東北大学医学部4年）は、高校での研究をさらに深めたいとの思いからGSCを受講。そこで出会った先生に感銘を受けて東北大医学部に進み、現在は海外の大学で研究や論文発表を行っている。「GSCで学ぶ意義を理解し、他の高校生とは違う選択を認めて、支えてくれた家族にも感謝しています」と話した。



登壇者写真左から、駒井推進委員長、羽田野さん、山中さん



トークセッション会場の様子

質疑応答では、現在の受講生から「GSCでの研究に楽しさを感じる一方で、学校でやらなければならないこととの両立が難しい」との声が上がった。羽田野さんは、「研究者になってもずっと付きまとう課題。しかし研究ばかりでは新しい発想が出ないので、高校の授業や部活にも、楽しみながら全力で取り組むことが大切」とアドバイス。山中美慧さんは、「時間の上手な使い方を考えるなかで、より効率的な実験方法が見つかったこともある。限られた時間での両立を目指してほしい」と自身の経験も踏まえて語った。

未来の科学技術人材に向けたメッセージとして二人は、「GSCのような活動を通じた人との出会いを生かしてほしい」（羽田野さん）、「将来への不安や研究上の課題などがあれば、私たちOB・OGの力も頼ってほしい」（山中美慧さん）と、人とのつながりを通じて研究を深めていくことの大切さを強調した。



サイエンスアゴラ2019推進委員長の駒井章治氏（奈良先端科学技術大学院大学准教授）はセッションのまとめで、「多様な価値観を持つ人たちと交流することで、自分がつくっていたバリアを壊して次のステップに進める。サイエンスアゴラのようなイベントも、そうしたきっかけをつくる場としてぜひ活用してほしい」と参加者に呼びかけた。

サイエンスアゴラの詳細についてはこちら  
<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>